

普及活動情勢報告（平成28年7月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

J A土佐香美露地みかん部会 北部支部現地研修会開催支援



熱心に話を聞く生産者

7月1日、西川地区公民館及び現地圃場で、J A土佐香美露地みかん部会北部支部の現地研修会が開催され11人の生産者が参加しました。現地ではJ Aが今年の摘果のポイントを説明した後に実演し、農業改良普及課はスライドによる身近な病害虫の見分け方と防除のポイントについて説明しました。

参加者の中にはUターンした生産者も数名おり、摘果管理や基本防除に関するポイントについて理解が深まり、高品質みかんの栽培に向けた意欲が高まりました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと連携し生産者全体の基本技術を高め、露地みかん部会北部支部の活動が充実するよう支援していきます。

6次産業化を推進します ～6次産業入門講座の開催～



質疑応答に耳を傾ける参加者

農業改良普及課は6月30日、南国市保健福祉センターにおいて、6次産業化に取り組む事業者の育成と、新たなビジネスにつなげていくために、「6次産業入門講座」を開催し、加工グループや関係機関など約50名が参加しました。講座では、「四万十ドラマ」畦地社長による地域資源である栗を活用した6次産業化の取り組みの講演と、6次産業化の支援施策の紹介を行いました。

参加者からは、「6次産業化に取り組むには、基盤となる1次産業が大切で、そのために、良い物を作りたい」「将来、6次産業化を考えているので、相談したい」などの声がありました。

農業改良普及課は、今後も研修会などの情報提供や加工品の開発・改良など6次産業化に取り組むグループを支援していきます。

第1回普及推進協議会を開催～普及指導計画や地域の課題などについて検討・意見交換～



熱心な検討や意見交換がなされました

農業改良普及課は、6月27日、管内農業者や市、JA等の委員で構成する普及推進協議会を香美農林合同庁舎で開催しました。

協議会では、農業改良普及課から本年度の普及指導計画の概要などを説明し、委員の方々からご意見を頂きました。また、地域の課題や各種事業などについて意見交換を行いました。

委員からは「環境制御普及促進事業」や「産地パワーアップ事業」の内容や運用について要望や意見を頂く一方、「環境制御技術の効果(シシトウ)」や「集落営農組織の新たな展開」に加え「規模拡大にあたっての課題である雇用労力の確保(小ネギほか)」などについて話題提供、協議がなされるなど有意義な協議会となりました。

環境制御技術の成果を地域で共有 ～中央東地区環境制御技術成果発表会を開催～



中央東地区環境制御技術成果発表会から

7月7日、JA土佐香美本所で、農業改良普及課とJA土佐香美は、中央東地区環境制御技術実証ほ成果発表会を開催し、生産者18名、関係機関27名が参加しました。

農業改良普及課は平成28園芸年度にニラ、シシトウなど、管内で実施した炭酸ガス施用の成果を、産地・流通支援課は県内の実証ほの成果を説明しました。生産者からは、技術の普及には、「みんなに正しい情報を伝えること、知ってもらうことが大事」といった意見が出されました。

農業改良普及課は、今後、部会や研究会等で成果を共有し、環境制御技術の普及を目指します。

集落営農の組織化への推進について ～南国市中山間直払集落協定代表者説明会～



集落協定代表者説明会で説明の様子

6月24日、南国市の中山間直払代表者説明会が開催され、14名の参加がありました。

農業改良普及課では、地域の現状等を整理し、集落営農の必要性やイメージ等を説明して意識啓発を行い、併せて集落営農塾への参加も促しました。

会終了後にアンケート調査を行った結果(回収率50%)、回答者の約半数の方が「集落営農は必要、又は必要はあるが難しい」と回答され、担い手不足や集落内の合意が難しい等の課題も見えました。

また、約30%の方が「研修会等に参加して勉強したい」とも答えており、今後は集落営農塾等を通じてさらに働きかけを行い、関係機関と協力して集落営農を推進していきます。

伝統野菜による地域の活性化に向けて一大豆「ハチマキ」の種子引き渡し式を開催しましたー



「ハチマキ」を播種する様子を地元テレビが取材しました

7月5日、香美市物部町神池で、「牧野野菜」を中心とした伝統野菜の復活に取り組む「Team Makino」のメンバー4名と、地元の農家4名との間で、種子の引き渡し式を行いました。

里帰りの種子は、「陰陽師が京より物部に持ち帰った」と伝わる大豆「はちまき」で、赤紫色の円周部に黄土色の線が入っています。

「Team Makino」からは「本来生息していた地域で育ててこそ、本来の特性が発揮される」と激励され、地元の農家は「生産を拡大して味噌を作りたい」と意気込みを語りました。

農業改良普及課は、今回の引き渡し式をコーディネートしましたが、伝統野菜を活用した地域の活性化に向けて支援していきます。

ピーマン出前授業を開催しました！



赤岡小学校での出前授業

6月20日、JA土佐香美ピーマン部会は、地産地消を目的とした食育活動の一環として、香南市赤岡町の小学生を産地に招いて収穫体験学習会を開催しました。

農業改良普及課は、収穫体験前の事前学習として、栽培方法や部会の取り組みについて説明しました。天敵昆虫や害虫を手にとり、「すごく小さい！」「カメムシの仲間なの？」といった反応が児童から返ってきました。

児童たちが収穫したピーマンは、後日給食の材料として使用されました。

農業改良普及課は、今後も収穫体験や試食宣伝等による消費拡大に向けた部会活動を支援していきます。

カンキツ改植先進地で改植方法と就農希望者研修体制を学ぶ！



園地を見学する参加者

7月11日、JA土佐香美柚子生産部会は、愛媛県松山市堀江町のカンキツ改植先進地を視察し、生産者6名が参加しました。

視察園地は、放棄園の改植にあわせて園内作業道を設置し、就農希望者の育成を行う研修センターとして利用していました。

生産者からは、「研修終了後に営農する園地の確保はどうしているのか」等、積極的な質問が出ました。

視察研修は、担い手確保、育成について個々が考える機会ともなりました。

農業改良普及課は、今回の研修を企画しましたが、今後も作業性の改善や新規就農者の確保、育成について支援します。

次の世代へ農業を託すために ～第1回南国市集落営農塾～



集落営農塾で講義の様子

7月12日、南国市で第1回目の集落営農塾が開催され、関係機関等を含めて82名が参加しました。

まず、南国市から市の現状や課題、年間スケジュールについて説明を行い、農業改良普及課からは集落営農の目的や必要性等について説明しました。その後、滋賀県の(農)サンファーム法養寺の上田理事から、自らの取組事例を始め、集落営農の具体的な手法等について講演をいただきました。

会終了後のアンケート調査によると、多くの方が「将来担い手不足で農地が荒れる」等の危機感を感じており、また、「今後も集落営農の研修会等に参加したい」と回答されました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と協力して集落営農を推進し、組織化に向けて支援していきます。

オオバの販売について市場関係者と意見交換



オオバ市場交流会の様子

6月21日、JA南国市大葉部会は、市場関係者との交流会を開催し、生産者26名、市場代表者8社が出席しました。

各市場の情勢報告では、高知のオオバは28園芸年度で数量が前年比85%と減少したが、単価が同132%で販売額としてはやや持ち直しているとの報告がありました。質疑では競合産地の生産状況や、市場評価について活発な討議が行われ、市場からは品質などは他県産より優位にあり、今後安定した供給と異物混入についての細心の注意が要望されました。

農業改良普及課からは、次世代型こうち新施設園芸技術フェアについてPRを行いました。今後販売状況の把握に努めるとともに、次世代型の栽培技術を推進していきます。

ニラのそぐり機と低コスト耐候性ハウスを産地パワーアップ事業導入に申請しました



産地パワーアップ事業導入PT会

6月3、6日、農業改良普及課で事業導入に向けたプロジェクトチーム会を開催し、関係機関との役割分担やスケジュールを決定しました。6月23日には事業申請に向けて計画の根拠を提示し、ニラのそぐり機(香南市25台、香美市2台)や低コスト耐久性ハウス(56a)を申請しました。

今後、農業改良普及課では、他の品目でも産地力が強化できるよう事業導入を支援します。

第2回 南国市3JAシシトウ部会の合同会議を開催しました！！



産地ビジョン検討中

7月19日、JA南国市南部営農センターにおいて、南国市3JAシシトウ部会の部長、女性部役員、園芸連、各JA職員が出席し、平成28年度のシシトウ生産者大会、産地ビジョンの検討、情報交換を行いました。

農業改良普及課は、会議の開催や運営を支援し、シシトウ産地の現状と市場や消費者から産地に期待すること等について説明しました。生産者大会は、これまでよりも多くの市場を招き、開催時期も11月に前倒しして実施することになりました。また、産地ビジョンの作成は前回抽出した課題の関連付けを行い、順次各部会でも検討を実施していくことになりました。

農業改良普及課は、JA各部会、関係機関と連携して計画的に活動ができるよう支援していきます。